



大島 勉 議員
(創政会)

問 市民にやさしい歩道を

現在、市内の歩道整備はどうなっているか。高齢者や障がいのある方等が歩行する場合、現在ある歩道で地割れしたり、雑草に覆われて危険な箇所が散見される。市民にやさしい歩道とはどのようなものとお考えか伺う。

答 快適で安全な歩行空間を確保していく

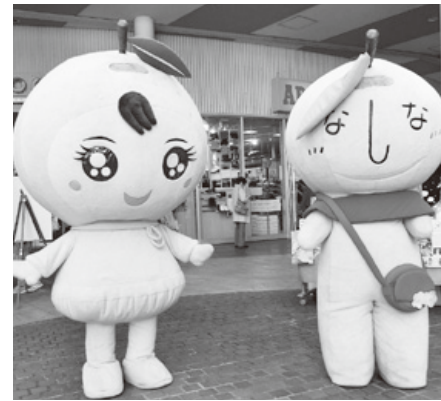
歩道の整備について、当市では国や県における公共施設の整備基準に基づき工事を実施している。今後も、路面や構造物の状況を確認し、安全で安心な環境が確保できるよう努めていく。

問 梨のまち白岡として

当市では、梨をイメージしたマスコットキャラクター「なしべえ・なしりん」があるが、どう活用されているか。また、白岡美人プロジェクトはどう進んでいるか。白岡の梨をPRするために、マスコットキャラクター等、今後どのように活用していくのか。

答 キャラクターを活用したPR活動を行う

イベント参加やテレビ出演、イラスト活用等により、特産品のPR等を行っている。白岡美人プロジェクトはPR活動用ロゴマークやのぼり旗等を制作し、今後、戦略策定に向け実行委員会を設置する。今後もマスコットキャラクターを活用したPRを行う。



イベント中のなしりん・なしべえ



菱沼あゆ美 議員
(公明党)

問 視覚障がい者や高齢者へ読み書き支援を

視覚障がいや弱視、高齢で読み書きが困難な人たちがいる。個人情報への扱いや、点字の翻訳等の多様なニーズに対応した、窓口での代読や代筆サービスが合理的配慮として必然である。市の職員等が、専門的な研修を受けて応じていくようにしてはどうか。

答 視覚障がいの方々への配慮に努めていく

市の窓口対応については、日ごろから職員が代筆や代読が行えるよう声掛けするなど視覚障がいの方々への配慮に努めている。また、障害者差別解消法に基づく職員対応要領を遵守し、窓口のサービス向上・充実を図っていく。

問 自主防災組織100%で防災力向上へ

自主防災組織が未設置の行政区はいくつか。100%を目指し、積極的に推進すべきではないか。また、避難行動要支援者の個別避難計画を、地域と福祉担当者が連携をして、作ってはどうか。その計画を生かした福祉的な避難訓練が必要だが、どうするのか。

答 組織化へ向けて積極的に働きかけていく

全45行政区のうち15行政区で未設置となっており、組織化に向けて積極的な働きかけを行っていく。また、避難行動要支援者の個別計画は、地域の協力を得ながら策定を進めており、個別計画を活用した避難訓練は、市の総合防災訓練での実施を検討していく。

